

平成25年度オホーツク総合振興局管内ケガニ漁場一斉調査結果

平成25年4月30日

(地独) 北海道立総合研究機構水産研究本部

網走水産試験場

この調査は、漁期前半のケガニかご漁業の状況をモニタリングする目的で行われています。昭和60年から毎年1回、下記機関と共同で継続実施しています。

網走支庁管内毛がに漁業対策協議会および各漁協げがにかご部会

北海道オホーツク総合振興局産業振興部水産課

宗谷総合振興局管内についても同様の調査を実施しており、その調査結果は稚内水試が取りまとめています。なお、資源量や漁獲許容量については、漁期後半の「資源密度調査」から推定されます。

調査結果の要約

- ・ 甲長8cm以上雄の100かご当たり漁獲尾数は367尾で昨年比3.2倍であり、過去のオホーツク総合振興局管内の平均値（310尾）の1.2倍程度でした。
- ・ 甲長8cm未満雄の100かご当たり漁獲尾数は133尾で昨年比3.2倍であり、過去の平均値（137尾）並でした。
- ・ 甲長8cm以上雄に占める堅ガニの割合は管内平均では37%で、昨年（45%）より8ポイント減少しました。
- ・ 全ての雄のうち甲長8cm未満の雄が占める割合は27%で、昨年（27%）と同程度でした。

調査方法

平成25年の調査は雄武、沙留、湧別、網走、ウトロの各漁協に所属するげがにかご漁業許可船8隻が参加し、4月16日から26日までに実施しました。

各船は通常の漁場で操業し、漁獲されたケガニを選別せずにコンテナ1杯（約40kg）になるまで採集しました。このときコンテナが1杯になるまでのカニかごの数を記録してもらいました。また、採集した標本を無選別のまま全て（雌や8cm以下の雄を含めて）港に水揚げし、甲長や体重などを測定しました。

調査結果

表1に各船の調査日、調査点の緯度経度、水深、C P U E（1隻100かご当たりの漁獲尾数）を示しました。

表 1 2013(平成25)年 網走海域ケガニ一斉調査標本採集データ一覧

海域	漁協	調査日	船名	北緯	東経	水深 (m)	C P U E (100かご当たり漁獲尾数)				
							甲長8cm以上オス			8cm未満	
							堅	若	計	オス	
網走西部	雄武	4月16日	第二十八辨天丸	44 - 44.2	142 - 58.2	64	125	742	867	108	25
	"	"	第二十一隆春丸	44 - 36.5	143 - 9.8	68	100	743	843	93	14
	沙留	4月17日	第三十五昭治丸	44 - 32.1	143 - 11.1	50	293	113	407	413	0
	"	"	第三 北宝丸	44 - 32.0	143 - 23.0	75	132	38	170	119	16
海域1隻平均							163	409	572	183	14
網走中部	湧別	4月18日	第8 福王丸	44 - 21.0	143 - 43.0	82	131	44	175	66	3
	"	"	第二十八金栄丸	44 - 21.0	143 - 42.0	73	200	37	237	96	11
	海域1隻平均							166	40	206	81
網走東部	網走	4月26日	第五十八欣宝丸	44 - 2.7	144 - 31.4	84	50	89	139	129	32
	ウトロ	4月23日	第二十三北翔丸	44 - 0.6	144 - 51.3	55	45	49	94	37	2
	海域1隻平均							48	69	117	83
管内1隻平均							135	232	367	133	13

・CPU E (100かご当たり漁獲尾数)

図1に漁獲対象である甲長8cm以上雄ガニのCPU Eとそれに占める堅ガニの割合の年変化を、図2には8cm未満の雄ガニ(規格外)のCPU Eを地域別と網走全体で示しました。ただし、この調査は通常操業用の3寸8分目のかごによる調査であるため、採集される雄ガニのほとんどは甲長7cm以上の個体となっています。

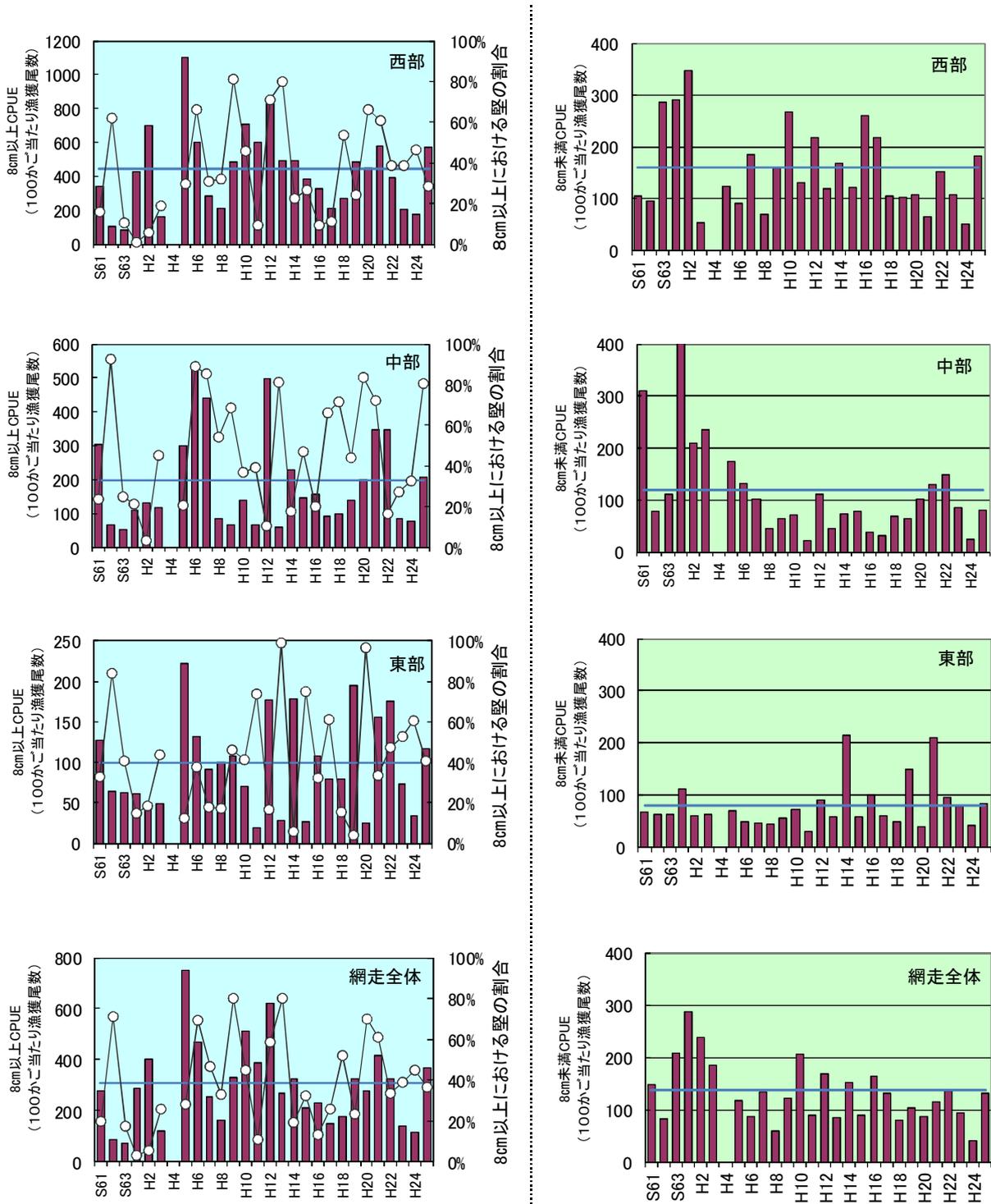


図1 甲長8cm以上雄の100かご当たり漁獲尾数(CPUE; 縦棒)と堅ガニの割合(白丸折れ線)の推移(青線はCPUE平均値)

図2 甲長8cm未満雄(規格外)の100かご当たり漁獲尾数の推移(青線は平均値)

①甲長8cm以上の雄ガニのCPU Eは管内平均1隻当たり367尾で、平成24年（115尾）の3.2倍に増加しました（図1）。これは過去の平均値（昭和61年から平成20年までの平均値310尾）の1.2倍程度であり、3年ぶりに過去平均値を上回りました。海域ごとにみると、西部海域のCPU Eは572尾で昨年（175尾）の3.3倍、中部海域は206尾で昨年（77尾）の2.7倍、東部海域は117尾で昨年（34尾）の3.4倍と各海域とも大きく増加しました。過去平均値と比較すると、西部海域（平均値446尾）は1.3倍、中部海域（平均値196尾）は1.1倍、東部海域（平均値99尾）は1.2倍程度で、各海域とも平均値を上回りました。

②甲長8cm未満雄ガニ（大部分が7cm台）のCPU Eは、管内平均1隻当たり133尾で、昨年（42尾）の3.2倍に増加しました（図2）。また、過去の平均値（137尾）と比較すると過去平均並で、3年振りに平均値程度まで回復しました。海域ごとにみると、西部海域のCPU Eが160尾で昨年（51尾）の3.6倍、中部海域が81尾で昨年（25尾）の3.3倍、東部海域は83尾で昨年（40尾）の2.1倍と各海域とも昨年度の2～3倍程度に増加しました。

・甲長8cm以上雄の堅ガニの割合と漁獲動向

採集された甲長8cm以上雄ガニのうち、堅ガニの割合は管内平均では37%で、昨年の45%より8ポイント減少しました（図1）。海域別に見ると、西部海域は29%で昨年の46%と17ポイント減少しました。中部海域は80%で昨年の33%から47ポイント増加、東部海域は41%で昨年の61%より20ポイント減少しました。

甲長8cm以上の堅ガニのCPU Eは管内平均1隻当たり135尾で、昨年（52尾）の2.6倍に増加しました。海域別には、西部海域が163尾（昨年81尾）と昨年の2.0倍、中部海域が166尾（昨年25尾）と昨年の6.6倍、東部海域が48尾（昨年21尾）で昨年の2.3倍にそれぞれ増加しました。

管内全体の堅・若の比率で見ますと堅ガニの割合は昨年よりやや減少しましたが、CPU Eは大きく増加したことから、漁期初めの堅ガニの漁獲量は昨年より良いと考えられました。

・各銘柄（サイズ）の割合

漁獲対象である甲長8cm以上雄ガニのうち銘柄「小」（甲長8cm台）の割合は、西部海域が昨年より2ポイント増加して84%、中部海域が7ポイント増加して80%、東部海域が6ポイント減少して84%となりました（図3）。近年の中では平成19～21年では西部海域で「小」の割合が70%以下、平成22年では3海域とも70%以下でしたが、平成23年からは各海域ともほぼ70%以上となり、平成25年は80%以上と「小」ガニの比率が高い年となりました。

漁獲対象外である甲長8cm未満雄ガニが雄の総数に占める割合は、西部海域が昨年より1ポイント高い24%、中部海域で27ポイント高い76%、東部海域では12ポイント低い42%でした。管内全域としては昨年と同程度の27%でした（図4）。甲長8cm未満雄ガニの割合は平成22、23年は増加傾向にありましたが、平成24年に減少し、平成25年は横ばいでした。

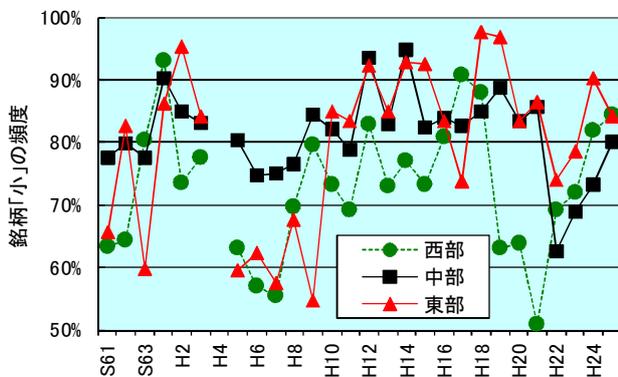


図3 規格内総数に小（8cm台）が占める割合の推移

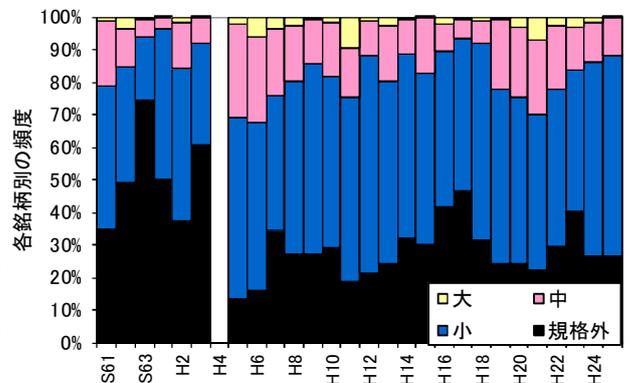


図4 網走海域における各規格の割合の推移

調査結果と漁業の状況

昨年（2012年）および一昨年（2011年）の初漁期は海水温が低めに推移しました。本年（2013年）も流水が比較的遅く3月上旬まで居座ったことから初漁期の遅れや海水温の低下が懸念されましたが、けがに漁業としてはほぼ予定通りに開始されました。また、本調査結果からみると、初漁期では8cm以上、8cm以下の雄ガニ共にCPU Eは昨年より大きく増加し、平年値と比較しても3年振りに平年値並みの値に回復しました。漁期初めの漁模様に影響がある環境要因（水温等）は毎年安定的ではない事が想定されるため、本調査結果だけから漁獲動向や資源動向を評価する事は難しいのですが、昨年の密度調査結果も合わせて本年の資源状態は回復基調にあったことが伺えました。今後は、操業時の漁獲動向やまかご一杯調査の結果も注視しつつ、6月中旬以降に密度調査を行い次年度の資源評価を行う事になりますので、ご協力よろしくお願いたします。

